

第五回 地域づくりと教育・文化運動全国交流研究集会 (新潟集會)参加者の声

(一九八九・一一・九～一〇)

初めて参加いたしました。第五分科会に出席して、各地域での活動、運動を知り、大いに学ぶことができました。現在保母として、母として、おやこ劇場の役員としてその任務の重大さを切に感じています。

あまりに多くの課題があり何から取り組むべきか混乱していますが、農村地域で生活し、公立保育所で働いて、できる所からと活動しています。地域に根ざすことを第一に考え、お母さんたちとの組織作り、子ども組織作りに頑張りたいと思います。

(篠原 節子 西蒲原郡黒崎町・保母)

基調報告、八木さんの話はいつも難しいのに、今回は楽しく聞かせて頂きました。大江山の実践(分散会)、「新潟日報」の連載を思い出しながら聞きました。どこ

から自分でもできそうか、探りながら聞きました。第一分科会の三本の報告も感動的でした。自分の足下からどうやって共同の子育てを組立てていったらいいか、このおとは自分で考えなくては……。

(小川 伸一 新潟市・教員)

第三分科会に参加しました。

子どもが育っていくには、保育園や学校という施設の中の環境を整えるだけでは非常に不十分で、地域 大人たちの生活状況がどうであるかが重要であると痛感しました。これからも、地域の発展を教育(子ども)の発達という側面からみていくことがとても大切と思いました。

大人自身が、人間らしい生活を送れるようにしていかないとだめですね。

(田家 明美 新潟市・公務員)

初めて参加させて頂きました。地域づくり、農業と教育とのかわり……多くの地域で、多くの取り組みがさまざまな形で取り組まれていることを、あらためて知ることができました。私たち農協の労働者・労働

組合は農業・農民と直接かかわっているだけに、今回の集会で学んだ教訓を生かして活動をしていきたいと思えます。

番外の夜の交流懇親会でも多くのことを学ぶことができました。

(今井 賢市 刈羽郡小国町・農協労働者)

生協の運動の柱として、どうしても教育問題を入れていく必要があると考えて、それをどう提案し具体的にどう方向づけていけるかを探りたい、そういうことで参加しました。人間としてどう生きるべきか、何を大切にしなければいけないのか、それを教師も同じテーマで真剣に考えること。子どもも一人の人間であり、人として尊重されなければならぬということ、原点として考えることの大切さを感じました。

(清水 久美子 長野市・生協職員)

※「いがたの教育情報」第二五号は「第五回地域づくりと教育・文化運動全国交流研究集会(新潟集會)」の報告特集号として発刊します。三月中旬発行の予定です。ご期待ください。